

- ② 県本部代表に聞く：「小さな親切」運動と銀行の大いなる接点
「小さな親切」運動 静岡県本部代表 柴田 久
(公社)「小さな親切」運動本部理事 梅森 徹
- ⑥ 2018 “よい仕事おこし” フェアへ初出展
「小さな親切」運動をPRしました
- ⑧ 一人ひとりの熱意が運動の原動力
平成30年度「小さな親切」運動大賞・運動賞 受賞者紹介
- ⑩ わがまちの親切さん
東京都・福井県越前町
- ⑪ 先達からのメッセージ「山のあいさつ・街のあいさつ」
山形県酒田「小さな親切」の会 代表 前田直己
- ⑫ イライラを楽しもう
工作教室 IN 宮崎県 都城市立明道小学校
- ⑬ コラム「これってどうなの?」／のんちゃんのおすすめ紹介
- ⑭ Information & HIROBA



表紙写真

- ①：大型布製紙芝居の読み聞かせ
(鹿児島県・福宿玲子さん)
- ②：講師の有賀先生と記念撮影
(都城市立明道小)
- ③：静岡県本部柴田代表・運動本部
梅森理事の対談
- ④：各地の特産品が集う“よい仕事
おこし”フェア
- ⑤：きれいなお花がお出迎え
(都城市役所)
- ⑥：豪華な海鮮丼 (宮崎市)

「小さな親切」誌は、季刊発行
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

平成30年11月1日発行 通巻512号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL. 03-3263-2866 FAX. 03-3263-3838
<http://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社

©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。

デザイン・DTP 有限会社リトルフット

イラスト P10、P11：清水 稔／P13：安彦麻理絵



「山に初雪降るころに、
かえらぬ人となった彼……」

代表
鈴木恒夫

時 が過ぎ、季節がめぐって秋が深まると、今年もまたこの歌がたびたび耳に響く。

人は誰も悲しかったこと、辛かったことが心にしみ残っているから、そのたびに胸によみがえる人の顔がある。やまもと ひろし(山本 博)。「初雪」の言葉とともに、必ず私の頭に浮かぶのは彼。横浜の公立中学校、高校を通してサッカー部で汗を流し合った親友中の親友だ。彼はゴールキーパー、私はフォワード。公立の学校ながら熱心な監督の先生と、なかなかファイトのあるメンバーもいて、地元でも名うてのチームだった。

彼は成績もきわめて優秀。2歳年上のお兄さんも同じ学校の先輩で、この人もサッカー部の名選手。兄弟とも理数系に強く、大学は兄が東京工業大学、弟は横浜国立大学に進学した。ただ、父親が戦死して、母親が女手ひとつで生計を立てていたため、弟の彼は昼間は会社で働き、夜に工学部で学ぶ、けなげな若者だった。彼は母親の苦勞を思い、自ら学費をまかなおうと夜学の道を選んだのだった。

私 は大学進学で彼と別れ、早稲田大学へ。入学した秋のこと。私は第一志望の大学に進んだうれしさに酔い、東京六大学野球の早慶戦で「都の西北」に声を枯らし、神宮球場から自宅に帰って着替えをしながら、たまたまテレビをつけると、まさかのニュースが目と耳にとびこんできた。

『初雪の降った鹿島槍ヶ岳で学生が遭難』。え〜

と試してみていると、死亡した学生の中に「山本 博」の名が。昼間は働いているからサッカーはあきらめて、休みの日に山登りができる山岳部に入ったとは聞いていたが……。数日後、彼の遺体は横浜に帰り、私は涙にまみれてお棺を運ばせてもらった。

こ の秀才はまた、やさしさに溢れた若者でもあった。中学3年のころだったろうか。

「ウチで飼っているネコが子を産んだ。1匹、キミちにあげたいんだが……」と言う。その頃、わが家には飼っていた動物がいなかったから、喜んで貰うことに。その当時は、ペット用の飼育箱などない時代。彼はどうやって子猫を届けてくれたか。電車で二駅も離れている彼の家から、「僕が自分の手でつれて、歩いていくから、道の途中まで迎えに来てくれない?」と言う。その通りにすると、道の向こうから歩いてくる彼は、学生服のまま。なんと、ボタンをはずした胸のすき間から子猫の顔がのぞいていた。

「二度と笑わぬ彼の顔 二度と聞かれぬ彼の声……」。私は胸のうちで、こう叫ぶ。

「お〜い、やまもと。もう雪に足をとられるなよ〜」。すると、白いユニフォーム姿の山本の声が背中を越えて、とんできた。

「鈴木〜っ、走れ〜っ、敗けるな〜っ」。

ようし、君の分まで、おれはがんばる〜っ。

*歌：フォーセインツ「小さな日記」